令和8年度　村松小学校　学力向上プラン

【児童の実態】

令和8年度学力調査

《質問紙》
- 「夢や目標をもっている」と回答した割合が高い。
- 地域に愛着をもつ児童が多い。

《共　通》
- 3年から6年は、全国・県・市の平均を下回っている。
- 問題の意図を正確に読み取れない。
- 複数の情報を関連付けて読むことが苦手である。
- 目的や条件に応じた文章（説明）を書くことが苦手である。
- 説明する活動・問題に課題がある。
- 知識の習得（漢字や計算）は平均程度の正答率となっている。

《国　語》
- 主語・述語の理解が不十分である。
- 自分の考えを分かりやすく文章で書き表すことが苦手である。

《算　数》
- 問題解決の方法について、図や式をもとに論理的に説明することが苦手である。
- 図形や数量関係についての理解度が十分でない。

【到達目標】

《めざす姿》　未来に夢を描き、時代をよりよく生きるたくましい子ども

《数値目標》

【学力調査】
学力調査において、学校の平均正答率が全国・県・市の平均正答率以上となる。

【各学期末】
国語科・算数科の学期末評価テストにおける学級平均正答率が80%以上となる。

〈到達目標達成のための重点指導事項〉

1 書く活動・言語活動の充実
2 読解力の育成
3 確かな評価（振り返り・習熟）
4 基礎基本の定着

【心の教育】

優しさ・耐性・人間性を支える豊かな心の育成

1 児童理解の日常化
2 信頼関係の構築
3 自己肯定感の醸成
4 思いを言葉に乗せたやりとりへの導き

【生活指導】

1 互いに助け合い励まし合う学年・学級集団作りを目指す。
2 一人一人の児童理解に努める。
3 一人一人の児童を生かす学習指導の展開を図る。
4 基本的生活習慣を身に付けさせる。
5 安全指導を推進する。

【分かる・できる授業の創造】

1 「書く活動」「言語活動」を重視する授業
- 主語や述語を明確にした文章を書かせる。
- 根拠を明確にした文章を書かせる。
- 条件に合った文章を書かせる。
- 複数の資料から読み取った考えを表現させる。

2 自力解決の場面・習熟の時間のある授業
3 「ねらい」と「まとめ」が子どもに届く授業
4 対話活動（ペア・グループ・全体）のある授業
5 ICTを活用した授業
6 T・Tと連携した個別・補充の指導

【校内研究】

1 授業実践
- 全体授業・全クラス授業公開
- 主体的・対話的で深い学びの追究

2 学習・生活環境整備
- 学習規律や言語活動におけるルールづくり
- 環境整備
- 家庭への啓発等
- 全校学力調査（算数12月）

3 現職教育
- 特別支援教育、人権・平和教育

【各学年の具体的な取組】

1年 ・音読を通して音と文字を一致させ、文字の習得につなげる。
・キーワードに印をつけさせ、問題の意図を正確にとらえるようにさせる。
2年 ・主述をはっきりし、様子を表す言葉を意識した文章を書くようにさせる。
・漢字のミニテストや、様子を表す言葉の練習に取り組ませる。
3年 ・漢字スキルの言葉を使った短文作りに取り組ませる。
・国語辞典の使い方の習熟を図る。
4年 ・複数の学習用具（プリント・キュビナ・スキルなど）を使って習熟を図る。
・考えの根拠を図や式、言葉で表現する時間を設ける。
5年 ・自力解決の時間を保証する。
・計算力の向上のために、百マス計算（和差積商）を継続して行う。
6年 ・読解問題を課題として定期的に課す。
・単元の終末に習熟の時間を確保する。

【授業を支える取組】

1 読書活動の充実
- 読書タイム（週1回）
- 読み聞かせ
  図書ボランティア（よみよみの会）
- ファミリー読書

2 学習規律の確立
- 学習用具のきまり

3 学校サポーターの活用
- 実技応援隊（家庭科・音楽）
- ゲストティーチャー